

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	八戸まちなか広場「マチニワ」を活用した、八戸市中心街地の活性化について	八戸市
アイデア名 (注2) (公開)	マチニワ市プロジェクト		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	八商2組2班		
チーム属性 (公開)	<input type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	5名		
代表者情報	氏名 (公開)	田名部かほ子	
メンバー情報		杉本小槇、坊山菜々美、秋庭杏実、種市帆乃夏、田村凜香	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

衰退する八戸市中心街地を活性化させて、たくさんの市民が活用し、にぎわいを生み出す状況をつくりたい。  
また、八戸市内で有数の朝市である館鼻岸壁朝市に待機出店店舗の、新たな出店の場づくりを行いたい。

<解決アイデアの内容>

私たちは、八戸まちなか広場「マチニワ」を活用した、八戸市中心市街地活性化について注目した。八戸市中心街を活性化させるためには「マチニワ」を利用する案を考えるために、マチニワでの想定されるイベントを調べた。

想定されるイベント	
・朝市	・子供の遊戯広場
・アートイベント	・フリーマーケット
・スポーツイベント	・式典（表彰式など）
・食のイベント	・パブリックビューイング
・ビアガーデン	・展示・即売会
・ミニコンサート	・展覧会
・イルミネーション	・結婚式
・祭り	
（八戸三社大祭、八戸えんぶり、 八戸七夕、はちのへホコテン）	
	etc...

※三日町にぎわい拠点整備基本計画

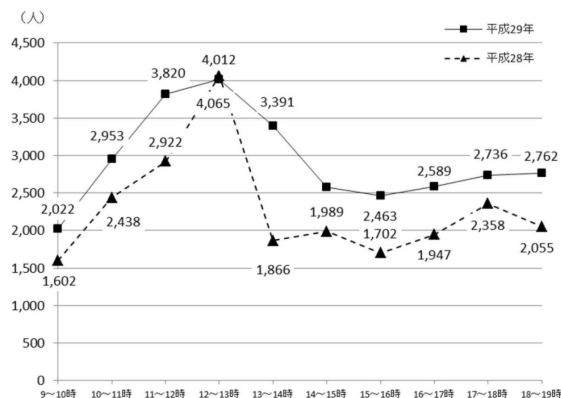
この中から私たちは朝市に注目し、その次に中心街はどの時間帯に通行量が多いのか知る必要があると考えた。



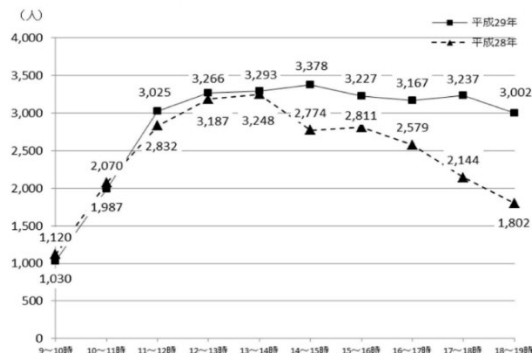
※画像提供

八戸市（八戸ポータルミュージアム）

時間帯による通行量の変化（平日）



時間帯による通行量の変化（日曜日）



出典：八戸市中心市街地活性化協議会「平成29年度八戸中心商店街通行量調査結果」

実際の中心商店街の通行量を調べた結果、このグラフから平日、休日どちらも昼の時間帯に通行量が多いことが分かる。

昼にマチニワ市を企画することで、幅広い年齢層の人たちに訪れてもらうことができると考えた。

### 訪問者の特徴

滞在時間	1時間未満	<b>1～2時間</b>	2～3時間	3時間以上	
混雑状況	空いている	やや空き	普通	やや混雑	<b>混雑</b>
年齢層	10代	20代	30代	40代	<b>50代以上</b>
男女比	男性が多い	やや男性多	約半数	やや女性多	女性が多い
訪問人数	1人	<b>2人</b>	3～5人	6～9人	10人以上
子供の年齢	<b>0～1歳</b>	2～3歳	4～6歳	7～12歳	13歳以上

※じゃらんホームページ：館鼻岸壁朝市の訪問者傾向

このグラフから朝市に訪れる割合は、比較的高齢者が多くみられる。そのため、昼市を開催する場合でも、まずは朝市に良く通う年齢層である高齢者をターゲットにした案を考えた。

### 〈アイデア案〉

- 1、マチニワを利用し昼市を行う
- 2、昼市を行うことにより多く訪れることが予想されるためマチニワの一角を利用して健康ブースを作る

## (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

昼前の通行量が多いため、私たちは中心街で昼市を開催することで、八戸市中心街を活性化させることができるのではないかと考えた。

朝市といえば八戸市では館鼻岸壁朝市であり、毎週日曜日朝に2～3万人の集客を生む成功例だが、主に以下のような問題点を抱えている。

### 館鼻岸壁朝市問題点

- ・360店が出店しているが、現在80店が待機中
- ・行政から後ろ指を指されないようにするため、撤収も終了予定の午前9：00から10分以内に見事にもとの岸壁広場に戻さなければならない。

※引用：（賢者の選択）[https://kenja.jp/693\\_20160502/](https://kenja.jp/693_20160502/)

これらの問題点から待機中の店をターゲットにした案を考えた。そこで、協同組合 湊日曜朝市会に協力いただき、待機中の出店希望者に機会を提供することとした。待機中の店舗で了承して下さった店舗のなかから出店説明会を実施し、多数の場合は抽選で約10店舗を決める。さらに、施設内にある大型モニターを使って八戸のPR動画を流し、八戸の魅力を知らせながら買い物を楽しむことができ観光需要に応えることとした。

八戸市中心街を活性化でき館鼻岸壁朝市の問題点も解決できる。マチニワで開催することによって以下のようなメリットが挙げられる。

- 1、マチニワ付近にはバス停が多く高齢者がバスを利用しやすい
- 2、屋根のあるマチニワで行うことにより天候に左右されない
- 3、施設内にある大型モニターを使って八戸のPR動画を流し市民や観光客に八戸の魅力を知らせる
- 4、来場者は「マチニワ昼市」だけでなく、中心街各店舗に回遊する需要も創出できる

館鼻岸壁朝市は多くの人で賑わっている。このように、昼市を行えば開催地は盛り上がり人が集まると考えられる。そのため、昼市を開くことで八戸市中心街を活性化できると考えた。

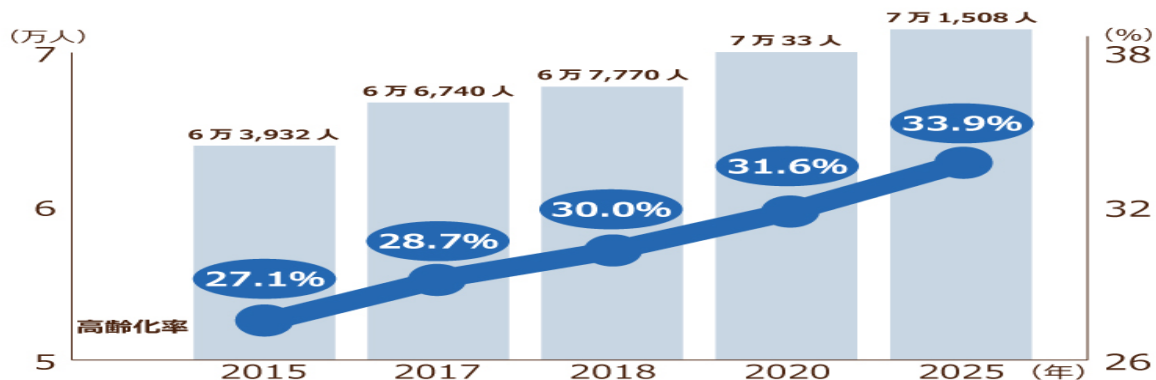


## よし、マチニワで昼市を開いてみよう！

マチニワで昼市を行うことによって、高齢者を中心に通行量が多くなることが予想される。マチニワを継続して利用してもらうには高齢者同士がコミュニケーションをとりマチニワの利用イメージを市民の人に理解してもらう必要がある。

そこで、八戸市内の高齢者の割合を調べることにした。

## 八戸市の高齢者人口



※出典 八戸市

八戸市の高齢者の人口は年々増加していることが分かる。

また、内閣府が行った「高齢者の健康に関する意識調査 平成29」によると

- 1位 栄養とバランスのとれた食事をする (59.4%)
- 2位 健康調査などを定期的に受ける (53.3%)
- 3位 休養や睡眠を十分にとる (53.0%)

と健康調査が2位に挙げられていることが分かる。そのため高齢者の人たちが健康的に過ごすためには、定期的に健康測定を行うことが大切である。マチニワを利用することによりコミュニケーションの場となり、脳の活性化や情報交換ができる。さらに、中心街がより活性化しマチニワを利用する人が増えると考えた。

健康ブースを作ることによって気軽に健康測定を行ってもらえる。**血管年齢測定器**と**脳年齢測定器**をマチニワの一角に置き自分の体の健康について知るいい機会になる。



よし、マチニワに健康ブースを作ろう！





### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

アイデア実現のためには、

1、マチニワで健康測定、昼市を行うにあたって、ポスター作成をして、広告活動をする。

また、八戸市の方と協力して八戸市の公式ツイッターや、インスタグラムに写真をアップし、若い人にも来てもらう。

2、健康測定は、血管年齢測定、脳年齢測定を行う。そのために、血管年齢測定器と脳年齢測定器を、病院から借りる必要がある。病院に問い合わせをし、協力してくださる看護学校をさがす。（八戸市内の看護学校に協力してもらう）



3、館鼻岸壁朝市では、今、約80店が出店待ちの状況だ。湊日曜朝市会と協力の上でその店舗に説明し、昼市に出店していただく。

4、中心街の賑わい創出と、中心街の各店舗への波及効果を見据え、市や商店街及び各店舗に協力依頼し、広報活動等への協賛を得て事業を実施する。



参考文献

- ・八戸まちなか広場「マチニワ」（画像）
- ・イラスト屋（イラスト）